

2018年度事業報告書

(認定/埼玉県指定)特定非営利活動法人 国際協力NGO・IV-JAPAN

1. 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日・実施場所・その他詳細
(1) 国際協力事業	IV奨学金支給: ①カノック奨学金支給 日本全国より奨学金ドナーを募り、タイ、ラオスの子ども達と職業訓練生、計118名に奨学金を支給し、教育の底上げに寄与した。	実施日時: 通年 実施場所: タイ・ラオス 従事者の人数: 2名 受益対象者の範囲及び人数: タイ40名(農村の小中学生)ラオス78名(職業訓練生)
	②山の民奨学金支給 日本全国より奨学金ドナーを募り、訓練生20名分の奨学金を得た。 ホスピタリティ・介護職業訓練生への奨学金支給は、2019年度を予定している。	実施日時: 通年 実施場所: ラオス 従事者の人数: 2名 受益対象者の範囲及び人数: 0名 (ドナー募集段階であり、訓練開始後に奨学金支給予定のため。支給対象者はホスピタリティ・介護職業訓練生前期20名、後期20名を予定)
(2) 国際協力事業	ラオス木工職業訓練校における教育レベル向上プロジェクト (JICA草の根パートナー事業): ・2018年6月25日から8月31にかけて、カウンターパートである職業教育開発機関(VEDI)木工実習室にて、ラオス地方木工技術短大から選抜したトレーナーおよび家具協会2名を対象とした、第1回主任トレーナー研修を実施した。日本からは、木エインストラクターとして石橋氏、木工機械専門家として赤松氏(ものづくり大学学長)、木材塗装専門家として長澤氏(キャピタルペイント株式会社社長)をそれぞれラオスへ派遣した。参加者全員が全プログラムにおいて合格点を獲得することができた。 ・IV-JAPAN、VEDI、ラオス家具組合(LFA)間の連携を進めた結果、3者間で協定書を締結、産学民協働で本事業を実施していくこととなった。 ・2019年2月、飯村に代わり田澤が本事業のプロジェクトマネージャーとして赴任した。	実施日時: 2018年4月～2019年3月 実施場所: ラオス 従事者の人数: 8名 受益対象者の範囲及び人数: 14名 (VEDI木エトレーナー2名、県職業教育校木エトレーナー10名およびラオス家具協会2名)
(3) 国際協力事業	地方の女性・青年の就業促進のためのホスピタリティ・介護職業訓練 (外務省NGO連携支援無償資金協力事業): 2019年3月1日、在ラオス日本大使館にて、外務省NGO連携無償資金協力(N連)の署名式が行われ、本事業が正式にスタートすることとなった。また、3月29日には、本事業のカウンターパートであるビエンチャン都教育スポーツ局と事業契約調印式(Memorandum of Understanding=MoU)を行った。事業期間は2019年3月1日から2022年2月28日の3年間、事業予算は3年間で77,381,289円(N連申請額: 72,981,289円)。3月31日現在、事業計画により、当事業のカウンターパートが所有するナーサイトン郡職業訓練所の敷地内にて職業訓練所の建設準備を進めている。	実施日時: 2018年10月～2019年3月 カウンターパート: ビエンチャン都教育スポーツ局 実施場所: ラオス・ビエンチャン都ホスピタリティ・介護職業訓練センター(ナーサイトン郡職業訓練所内新築予定) 従事者の人数: 18名 受益対象者の範囲及び人数: 100名
(4) 国際協力事業	教育施設建設事業(伊藤裕子基金)	2018年度は実施されず。2019年度実施予定。
(5) 国際協力事業	マイクロファイナンス事業(夢屋基金):	上級コース3月卒業生3名の申請受理済み。2019年4月に支給予定。

事業名	事業内容	実施日・実施場所・その他詳細
(6) 国際協力事業	<p>JPF災害緊急支援: 2018年7月23日にラオス南部アタプー県で発生したダム決壊による水害被災者を支援するために、2018年8月30日から9月29日にかけて「ラオスアタプー県サナムサイ郡水害被災者へ支援物資の配布」事業を実施した。郡内に設置された9ヶ所の被災者キャンプのうち、最も支援を必要としていたタマヨート被災者キャンプを事業地に選定した。カウンターパートである同キャンプを管理するラオス赤十字と協働し、全被災者世帯に生活必需品を配布するとともに、キャンプ内に簡易トイレを6台設置し、給水設備を補充する資材を提供した。緊急ヘルスセンターには発電機を提供した。また、ラオス赤十字との協議の結果、トイレに困っている他のキャンプへもトイレを設置することとなり、タムアキャンプ場に1台、サナムサイ郡情報文化課や保険課の近くの避難所に3台設置した。</p>	<p>実施日時:2018年8月30日～2018年9月29日 実施場所:ラオス アタプー県 サナムサイ郡 従事者の人数:7名 受益者の対象者の範囲及び人数: タマヨート村被災者キャンプの145世帯、約800人</p>
(7) 国際協力事業	<p>ネパール教育支援「パティスワラ村の女性収入向上のための手工芸職業訓練事業」(彩の国埼玉国際交流基金+石川+長田+他寄付金): ・ネパール・ゴルカ郡・パティスワラ村に、手工芸職業訓練のための資機材(足踏みミシン4台、アイロン4台、アイロン台4台、かぎ針、その他材料)を導入した。 ・日本から手工芸品製作の専門家1名を同村に派遣し、村の女性グループ60名を対象に、1週間の手工芸職業訓練を実施した。ミシンを使った小物手芸やかぎ針手芸、アイロンの使い方などの初歩の初歩から訓練を開始し、村民の日々の暮らしの中で有効に活用できるような、財布、小バッグ、スマホケース、食器洗いニット、鍋敷き、コースターなどの小物づくりの手法を指導した。 ・専門家、富永(当会代表理事)、河島(当会理事)の3名で、村の成果品の販路を開拓するため、首都カトマンズにある3か所のフェアトレードショップを視察した。そのうちの1か所は、NEPAL CHARKHA PRACHARAK GANDHI-TULSI SMARAK MAHAGUTHI(通称:GA)の運営するフェアトレードショップで、同団体の職業訓練所も視察し、理事長と面会、今後協働していくこととなった。</p>	<p>実施日時:2018年12月7～2018年12月29日 実施場所:ネパール ゴルカ郡 パティスワラ村 従事者の人数:4名 受益者の対象者の範囲及び人数: 240名(職業訓練に参加した村の女性グループおよびその家族)</p>
(8) 国際協力事業	<p>ビエンチャンレスキュー消防車、救急車寄贈(埼玉県国際交流協会中古資機材供与事業): 2017年度からの継続事業。ラオス側は、中古車両受け取り団体であるビエンチャンレスキュー1623(VR)が、在ラオス日本大使館の「草の根・人間の安全保障無償資金協力」に申請し正式受理され、3月19日に署名式が行われた。申請事業名は「ビエンチャンレスキュー1623救急車及び消防車整備計画」。VRは3月27日に大使館より事業費小切手を受領した。 一方日本側は、車両の整備、通関に必要な書類の準備等も完了し、4月26日の貨物出港に向けて最終調整を行っている。</p>	<p>実施日時:2018年6月～2019年3月 実施場所:ラオス・ビエンチャン 従事者の人数:3名 受益者の対象者の範囲及び人数: ビエンチャンレスキュー1623およびビエンチャン市民</p>
(9) 国際協力事業	<p>IVラオ日本文化センター: ・ラオス富永自宅にて月に1回、表千家茶道教室を開催し、年間のべ100名が参加した。 ・6月22日に、JICAボランティアを対象に、ラオス料理教室を実施した。 ・8月9日に、沖縄高校生を対象に、ラオス衣装の紹介を行った。 ・8月16日に、文京学院大学インターン生を対象に、ラオス衣装の試着を行った。 ・12月9日に、ラオスのショッピングモール・リンピンマーケットにて、日本大使館主催の茶会を開催した。 ・富永がラオヤングデザイナーズプロジェクトの理事を務め、ラオスの若いデザイナー達を海外へ派遣し、国際的なデザイナーの養成に努めた。</p>	<p>実施日時:通年 実施場所:ラオス ビエンチャン 従事者の人数:2名 受益者の対象者の範囲及び人数:ラオス人、外国人および日本人</p>
(10) 国際協力事業	<p>教育資材(ボールペン)寄贈事業: 日本ラオスなかよしキッズ協会と協働し、ラオス・アタプー県サナムサイ郡の水害被災者の元へ日本からボールペンを寄贈した。</p>	<p>実施時間:2018年8月30日～2018年9月29日 実施場所:ラオス アタプー県 サナムサイ郡 従事者の人数:7名 受益者の対象者の範囲及び人数: サナムサイ郡水害被災者児童およびその家族</p>

事業名	事業内容	実施日・実施場所・その他詳細
(1) 国際理解・ 開発教育事業	大学生インターン、スタディツアー、ボランティア受入: インターン、スタディツアー(ST)、ボランティア等を受け入れ、当会職業訓練事業の紹介を行い、またラオ文化体験等を通して国際協力への理解を深め、将来国際的に活躍する人材の育成に寄与した。実施実績は下記の通り。 ・7月30日 JICA沖縄教師海外研修受け入れ 8名 ・8月7日 JOCA沖縄高校生ST受け入れ 21名 ・8月13日～8月31日 文京学院大学インターン受け入れ 2名 ・12月24日 長崎県立諫早高等学校ST受け入れ 21名 ・2月28日 芝浦工業大学ST受け入れ 20名 ・3月14日 高崎経済大学ST受け入れ 9名	実施日時: 通年 実施場所: ラオス・ビエンチャン 従事者の人数: 3名 受益者の対象者の範囲及び人数: インターン、スタディツアーおよびボランティア参加者、計81名
(2) 国際理解・ 開発教育事業	ボランティアとの協働(国内各種イベント出店): 日本国内各種イベントに出店し、ボランティアと協働しラオス雑貨の販売および当会の広報活動を行った。実施実績は下記の通り。 ・4月14日 板橋グリーンフェスタ2018(板橋) ボランティア参加者: 4名 ・5月3日、4日 国際友好ふれあいフェア2018(見沼) ボランティア参加者: 11名 ・9月29日 グローバルフェスタ2018(お台場) ボランティア参加者: 8名 ・10月7日 国際ふれあいフェア2018(浦和/パルコ前) ボランティア参加者: 5名 ・10月14日 国際フェア2018(さいたま新都心) ボランティア参加者: 5名 ・10月27日 2018大宮区フェア(大宮ソニックシティ) ボランティア参加者: 1名	実施日時: 通年 実施場所: 日本(主に埼玉県と東京都) 従事者の人数: 1名(その他ボランティア) 受益者の対象者の範囲及び人数: 計34名(ボランティア参加者)および各種イベント来場者
(3) 国際理解・ 開発教育事業	第21回スタディツアー(ラオス): 日本から2名がラオスに訪れ、当会の職業訓練所および現地の教育事情を視察し、ラオス事情および国際協力についての理解促進に寄与した。	実施日時: 2019年2月12日～2月17日 実施場所: ラオス 従事者の人数: 2名 受益者の対象者の範囲及び人数: 2名(スタディツアー参加者)
(1) 国内活動	アジア文化理解講座: ①2019年1月19日 ラオス語教室 参加者3名 事務局瀧口が講師となり、ラオス語の基礎(母音、子音、ラオス文字の書き方、簡単な会話表現など)を指導した。 ②2019年2月2日 ラオス料理教室 参加者15名 ラオス出身・日本在住のブンロム氏、ティアン氏を講師に招き、ラオスの伝統料理3種(もち米、豚ひき肉と香草のサラダ、たけのこスープ)を調理した。	実施日時: 2019年1月19日、2019年2月2日 実施場所: ①大宮区役所多目的室 ②大宮 桜木公民館調理室 従事者の人数: 1名 受益者の対象者の範囲及び人数: 計18名(講座参加者)
(2) 国内活動	30周年事業報告会: 2018年6月2日、資生堂美容技術専門学校にて、当会30周年事業報告会を実施した。当日は約180名の来場があり、来場者に対して、これまで当会が取り組んできた事業内容を報告するとともに、ドナーおよび関係者に感謝の意を伝える機会となった。ラオスより理美容コース卒業生1名、ケーン奏者1名を招聘し演奏した。	実施日時: 2018年6月2日 実施場所: 資生堂美容技術専門学校(東京都板橋区) 従事者の人数: 2名(その他ボランティア30名) 受益者の対象者の範囲及び人数: 報告会来場者約180名

事業名	事業内容	実施日・実施場所・その他詳細
NPO/NGO /大学ネット ワーキング促 進事業	1. NPO法人 埼玉NGOネットワーク: 団体会員 2. (特活)国際協力NGOセンター (JANIC): 正会員 3. さいたま市国際NGOネットワーク: 団体会員 4. LAOS INGO Network(ラオス): 正会員 5. ジャパンプラットフォーム(JPF): 加盟団体(2019年9月まで) 6. アジア・コミュニティ・トラスト: 登録団体 7. さいたま市大宮区市民活動ネットワーク 8. 彩の国さいたま国際交流・協力ネットワーク 監事団体	実施日時: 通年 実施場所: 日本全国、ラオス 従事者の人数: 2名
その他	広報紙発行・活動報告、他: 会員及び一般市民に対する広報活動 1. IVニュース (7月31日、11月30日、3月31日発行) 2. ホームページ (年数回更新) 3. 日本国内各種イベント出店 4. NHKラジオ深夜便ラオスレポート 富永リポーター(6月9日、9月22日、1月12日) 5. ものつくり大学市民特別公開講座(10/28 富永、講師として) 6. グローバルセミナー2019(2/10 飯村、講師として) 7. 第14回わくわく国際フェスタ(2/24 瀧口、発表者として)	実施日時: 通年 実施場所: 日本事務所、ラオス事務所 従事者の人数: 4名 受益者の対象者の範囲及び人数: 会員、ホームページ閲覧者、イベント来場者、ラジオ視聴者、その他

2. 収益事業 なし